人間環境学部項目

1 はじめに

1.1 人間環境学部の理念・目的および教育目標

人間環境学部の理念・目的および教育目標と、それに基づくカリキュラム・ポリシーは以下のとおりです。

理念･目的
人間環境学部は、〈人間」と「環境」が調和・共存する持続可能な社会〉への貢献を教育理念として1999年に誕生した。本学部は、文系の総合政策学部であり、また現代教養学部として、社会科学・自然科学・人文科学を融合させた学際的なカリキュラムによる教育を展開し、2017年3月には卒業生が5,000人を超えた。このような学部の歴史をふまえ、2030年を視野に入れた長期構想「人間環境学部2030 ～For Our Sustainable Future～」を2016年度に策定し、学部の３つの事業（教育・研究・社会貢献）に共通する核心的ミッションを以下のように定義した。 「人間環境学部は、〈モラルサイエンスへの自覚〉とともに、〈人間と環境の共存〉を基底的な価値としながら、〈人間と人間の共生〉にかかわる諸価値を含む統合的な持続可能性を、学際的かつ総合的な見地から、教育･研究・社会貢献の各事業を通して探究することにより、学部の社会的責任（Faculty Social Responsibility）を果たす。」 核心的ミッションに基づく本学部の教育上のミッションは､学際的かつ総合的なＥＳＤ(Education for Sustainable Development：持続可能な発展のための教育）により、まず第１に、〈サステイナブル・シチズンシップ〉（持続可能性にかかわる権利と責任を自覚し、あるべき社会の担い手にふさわしい人間性）を涵養することである。第２に、幅広い視野と、知性と感性が結びついた教養とともに、１つの専門性を有するＴ字型人材、あるいはメインとサブの複数の専門性を有するＵ字型人材を育成することである。そして第３に、ＥＳＤを基盤とする本学部独自のキャリア教育により、持続可能な社会への〈実践知〉を有するチェンジメーカーの素養を身につけた多様な人材を輩出することである。 本学部は、このような教育上のミッションを実現するために、〈人間と文明・文化に関する問題領域〉、〈科学・科学技術と社会に関する問題領域〉、〈市場経済に関する問題領域〉、〈グローバルなレベルにおける諸問題を包括的にとらえた領域〉、〈ローカルなレベルにおける諸問題を包括的にとらえた領域〉の５つとそれらの複合領域を、本学部の特性を活かした教育上の戦略的なフィールドとして、コース制に基づくカリキュラム体系に反映し、持続可能性に関する21世紀の多様な課題について学生が主体的に学ぶ教育環境を整備していく。その際、学部の黎明期からの伝統であるフィールド教育や社会と連携した教育を重視するとともに、法政大学のグローバル化戦略を体現した教育に取り組んでいく。さらに、一般学生に加え留学生や社会人学生など多様な属性の学生が集う学部のダイバーシティ化と、多層かつ多様なコミュニティの生成を促すことにより、〈開かれた学部〉づくりを推進していく。 本学部は、以上のような教育理念・目的に基づく実践を通して、「『持続可能な地球社会の構築』に貢献する」という法政大学のミッションの実現に向けたフロントランナーの役割を担っていく。

教育目標
人間環境学部人間環境学科は、法政大学の3つのミッションの1つである「激動する21世紀の多様な課題を解決し、『持続可能な地球社会の構築』に貢献する」役割を、教育面において中心的に担うことが可能な教育課程の編制により、豊かな人間性と現代人にもとめられる教養を涵養しながら、学際的な専門性と実践課題に対する政策能力の獲得によって、以下に示すようなＴ字型さらにＵ字型の人材を育成する。 １．「人間と環境の共存」、「人間と人間の共生」という理念を、持続可能な社会における中心的な価値規範として理解し、人類の軌跡や現代社会の諸課題についての幅広い知識・思考能力と豊かな感性をもとにして、持続可能な未来を展望できる教養を有する人材。 ２．グローバルかつローカルに、政治・経済・社会・文化・サイエンス（科学及び科学技術）に関わる諸課題に対して、持続可能性の観点から考察し、適切な解決手段を構想し実行できる政策能力を有する人材。 ３．持続可能な社会の担い手としてのシチズンシップを身につけ、多様な価値観を尊重しながら、社会に貢献する協働のネットワークの形成に必要なコミュニケーション能力を有する人材。

カリキュラム・ポリシー

■初年次教育の仕組み

初年次教育については、春学期開講の「人間環境学への招待」により、学部教育の全体像を理解し、人間環境セミナー、フィールドスタディにより、社会から実践的に学ぶ経験を経て、秋学期には基礎演習によってリテラシー能力を高めながら、自らの専門的な学習の方向性を模索し、2年次からのコース選択・登録と研究会履修に接続するサイクルを形成する。

さらに、学部教育と並行して、初年次から4年次まで市ヶ谷基礎（ILAC）科目により、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。

■教育課程の編制と特色

持続可能性を包括的に捉えた上で、「人間と環境の共存」、「人間と人間の共生」について専門的に学習することを目的とする「展開科目」では、社会科学・人文科学・自然科学の科目群を学際的に組み合わせて、講義科目を体系的に編成する。

本学部の教育課程の編制は、5つのテーマ領域から成るコース制を中心とする。学生が中心的に学ぶコースを自主的に選択し、学際的かつ総合的な教養と専門性を基盤としながら特定のテーマ領域を探究するカリキュラムにより、T字型さらにU字型の人材を育成することがコース制の目的である。

■学部・学科カリキュラムの構造

初年次教育を経て、2年次より、5つのコース（サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース、グローバル・サステイナビリティコース、人間文化コース、環境サイエンスコース）から１つのコースを選択・登録し、コースコア科目を履修することで各コースの専門性を深めつつ、コース共通科目およびコース連環科目により、学際的かつ総合的な教養と専門性を獲得する。

また、コース制と連動した研究会を設置し、少人数で集中的な学習を積み重ねてゆく。さらに研究会修了論文とコース修了論文は、卒業に向けて各学生が主体的に研究テーマを探求していく機会とする。

本学部の特色を反映したフィールドスタディおよび人間環境セミナーは、社会との交流・連携を通した最新かつ実践的な知識や、他者に対して共感する力を獲得しながら、自らのキャリア形成のための意識づけの機会となるキャリア教育科目としても位置づける。

さらに、グローバル・サステイナビリティコースのコースコア科目、フィールドスタディの海外コース、SA、グローバルオープン科目、英語学位プログラム（SCOPE）との相互乗り入れ科目等の編制により、グローバルな人材への体系的な教育機会とする。

ディプロマ・ポリシー

■所定の単位の修得により、以下の水準に達した学生に対して「学士（人間環境学)」を授与する。

１．実践的な語学や情報処理の基礎的な能力、文献購読・文章作成・コミュニケーションの基礎的な能力を身につけている。

２．持続可能な社会に関する幅広い教養を身につけている。

３．持続可能な社会に関する学際的かつ総合的な専門性を身につけている。

４．持続可能性に関して具体的な課題について考察した上で、適切な判断を導き、それらを文章や対話を通じて表現することができる。

５．社会の多様な人びとに対して共感する力と、現場（フィールド）から主体的に学ぶ姿勢を身につけている。

1.2 カリキュラムツリー・マップ

履修のモデル

カリキュラムツリーは、学部で開設している科目の関連を視覚的に表したものです。また、カリキュラムマップは、それぞれの科目が、ディプロマポリシーとどのような関連があるかを示したものです。これらを履修の参考、モデルとして活用してください。皆さんが関心を持っている具体的なテーマと、カリキュラムとの関係については、教員から直接アドバイスを受けてみてください。

カリキュラム（人間環境学部の教育体系）
http://www.hosei.ac.jp/ningenkankyo/gakka/e-system/index.html